

Newsletter for JADR

I. 2023 IADR/LAR General Session & Exhibition with WCPD (ボゴタ大会) を終えて

JADR 会長 森山 啓司

(東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科 顎顔面頸部機能再建学講座 顎顔面矯正学分野)

新型コロナウイルスの世界的感染拡大の長いトンネルを通り抜け、人々が自由に国境を越えて往来できる時代がようやく戻ってきました。国際会議の開催形式もオンラインから対面形式へとシフトしてきています。2023年6月21日—24日にかけて開催された第101回となる2023 IADR General Session & Exhibition (9th Meeting of the Latin American Region および 12th World Congress on Preventive dentistry との共催) は、IADR としては2019年のバンクーバー大会以来、実に4年ぶりとな

る対面形式大会でした。開催地となった南米コロンビアの首都ボゴタへは、日本から飛行機を乗り継いで30時間以上の長旅です。IADR 本部から事前に通知された治安面の注意事項などを踏まえ万全の計画を立てたものの、正直なところ未知の国への旅はやや不安の入り混じったものとなりました。しかし、いざ到着してみると、今まで知らなかったコロンビアの風土、文化に触れることができ、国際学会の楽しさを味わうことができました。会場となった Agora Bogota はとてもユニークな建物で、中に入ると巨大な吹き抜けがあり、各階の回廊の外周に会議室が整然と配置される構造となっていました。また、ネオンサインのような電光掲示板に学会名が表示され、独特の雰囲気醸し出されていました。参加者数は残念ながら従来の大会に比べて少なめで、特に日本をはじめとしたアジア諸国からの参加は低調な印象でした。

開会式では、IADR 会長(当時)の Brian O'Connell 先生(アイルランド)から、学会の正式名称が、The International Association for Dental, Oral and Craniofacial Research (略称は IADR のままとする)へと変更され、これに伴って新たなロゴが制定されたことが報告されました。各賞に関するセッションでは、津賀一弘先生(広島大学)の Award in Geriatric Oral Research 受賞が発表されました。JADR としてもたいへん嬉し



The 101st IADR General Session & Exhibition の会場となった
Agora Bogota



開会式での一コマ



IADR

INTERNATIONAL ASSOCIATION
FOR DENTAL, ORAL, AND
CRANIOFACIAL RESEARCH

いニュースであり、学会を代表して心よりお喜び申し上げます。開会式のフィナーレではコロンビアの民族舞踊がアトラクションとして披露され、会場は一層華やいだ雰囲気になりました。

本大会の Hatton Award Competition には、Teerachate Nantakeeratipat 先生（大阪大学）、木部 琴乃先生（九州大学）、柳田 陵介先生（東京医科歯科大学）の3名がJADRの代表として参加され、素晴らしい研究成果を発表していただきました。皆様のご健闘をたたえとともに、今後ますますのご活躍を期待しております。

会期中には IADR の会長職の引き継ぎセレモニーが行われ、Ophir Klein 先生（米国）が新会長として正式に着任されました。また同時に、今大会より今里 聡 先生（大阪大学）が次期会長、Pamela Yelick 先生（米国）が副会長にそれぞれ就任されております。

さて、IADR において恒例となっている”Japan Night”が、今回のボゴタ大会でも株式会社ジーシーのご厚意により開催されました。IADR の Brian O’Connell 会長、Chris Fox CEO、Local Host である IADR Latin American Region (LAR) の María del Carmen López Jordi 会長をはじめとした多くの VIP の方々も参加され、会場は大変な賑わいとなりました。IADR において日本の存在感をアピールする上でも格好の機会になったと思います。ご協賛いただきました株式会社ジーシーの関係者



“Japan Night”（ボゴタ）でのスナップ（右から、高橋信博 IADR Regional Board Member, 今里 聡 IADR 副会長, Ophir Klein IADR 会長, 筆者, 江草 宏 JADR 会計担当理事）

の皆様には、この場をお借りして改めて厚く御礼申し上げます。

さて、話題は IADR ボゴタ大会から IADR Asian Pacific Region (APR) へと移りますが、2023 Rising Star/Guiding Star Symposium of IADR APR が 2023 年 10 月 28 日—29 日を会期として、中国、成都で開催されました。（<https://iadr.sciconf.cn/en/web/index/19567>）このイベントは、2023 年 4 月 6 日に開催された APR Board Meeting において、Chinese Division から突然提案されたものでしたが、その後メール会議等で議論を重ねながら、参加登録費無料、現地とオンラインによるハイブリッド形式による開催となりました。JADR から江草宏先生（東北大学）と塚崎雅之先生（東京大学）がシンポジストとして参加された他、一般のポスターセッションも開催されました。急な開催決定となりましたので、皆様にはご案内が十分に行き届かずご迷惑をおかけしましたことを深くお詫び申し上げます。

最後になりますが、第 71 回 JADR 総会・学術大会が、2023 年 11 月 25 日・26 日の 2 日間にわたり、山田 聡 大会長（東北大学）のもとで、東北大学医学部開設百周年記念ホール（星陵オーデトリウム）にて開催されます。IADR の Klein Ophir 会長、KADR の In-Sung Yeo 会長による講演のセッションをはじめ、特別講演、シンポジウムなど多彩なプログラムが用意されています。また、2024 年の IADR Hatton Award Competition の JADR 代表者によるプレゼンテーションも予定されています。

皆様と秋の仙台で皆様にお目にかかれたいことを楽しみに、ぜひ多数のご来聴をお待ち申し上げます。

Ⅱ. 第101回IADR ボゴタ大会 (2023年度) 各受賞者報告、シンポジウム報告

1. 2023 IADR Distinguished Scientist Award in Geriatric Oral Research 受賞の御礼

津賀 一弘

(広島大学理事・副学長 (社会連携・基金・校友会担当)
大学院医系科学研究科先端歯科学教授)

この度、誠に多くの方々の30余年の長きにわたるご指導ご鞭撻のお蔭をもちまして、2023 IADR Distinguished Scientist Award in Geriatric Oral Research を受賞させていただきました。皆様のご恩は一生、忘れるものではありません。本当にありがとうございました。

1985年4月に故津留宏道先生の主宰される広島大学大学院歯学研究科歯科補綴学第一専攻入学以来、口腔機能の「見える化」を研究の中心テーマの一つとして取り組んでまいりました。そして、いくつもの幸運な出会いをいただきました。1996年文部省在外研究員として赤川安正先生のご紹介でGothenburg UniversityのProf. Gunnar E. Carlssonと80歳高齢者の共同研究を行いました。帰国後、広く臨床応用できる簡便な口腔機能検査の確立を目指し、大学院生の林亮先生と舌圧測定器を開発しました。地元広島の(株)ジェイ・エム・エスの協力と教職員有志の夜なべ仕事の消耗品製作で国内の大学・病院の先生方の研究に提供・使用していただき、苦闘の末、医療機器としての製造承認と上市に至りました。特に日本老年歯科医学会の森戸光彦先生、櫻井薫先生、水口俊介先生には理事長・学術委員長として口腔機能低下症の草案段階から舌圧検査に着目いただき、保険診療に使用できるようになりました。IADR Geriatric Oral Research Groupの小野高裕先生、池邊一典先生、上田貴之先生にはさらにIADRを通じての国際連携にご支援いただき、新進気鋭の荒川いつか先生や太田緑先生、今村嘉希先生がUniversity of BernのProf. Martin SchimmelやUniversity of GenevaのProf. Frauke Müllerとの共同研究を進めてくださったことで、舌圧検査は欧州にも拡がりつつあります。

超高齢社会をリードする日本の高齢者歯科学・歯科補綴学は、世界中の人々の健康長寿、SDGs達成に貢献すると確信しています。本稿でご紹介できなかった大学、臨床・介護現場、行政、地域、企業の皆様、どうぞお許しください。そして、本受賞を私たち皆の成果の証として共にお慶びいただければ幸いです。

末筆ながら、このような機会をいただきましたJADR関係各位に深謝いたしますとともに、皆様の末永いご健康と研究

のご発展をお祈り申し上げます。



2. Arthur R. Frechette Award

NAMANO, Sahaprom

(Gerodontology and Oral Rehabilitation,
Tokyo Medical and Dental University)



It was at first an immense honor to participate as an Arthur R. Frechette Award finalist in the 2023 IADR/LAR General Session & Exhibition held in Bogota, Colombia, and then later a winner of such a prestigious accolade in the field of prosthodontics research worldwide. This recognition stands as one of the most significant honors I have received in my career thus far.

The research I presented, titled "Dimensional Changes During

Post-Polymerization Conditions According to Support Structure Design," focused on Materials Science and Bioengineering. This project delved into the influence of support structure design on the post-polymerization phase of 3D-printed dentures, offering insights into ways to enhance dimensional accuracy. Our results unequivocally demonstrated that a manually designed support structure, combined with proper post-polymerization techniques, can significantly improve the accuracy of denture intaglio surfaces. This research not only benefits patients by delivering superior outcomes but also streamlines the overall process and contributes to eco-efficiency, an increasingly important aspect globally. As a presenter, it was a privilege to introduce this groundbreaking protocol and engage in discussions about this research with both the judges and the engaged audience during the competition stage.

Receiving this award has dramatically boosted my motivation to continue advancing research in prosthodontics and dentistry. The opportunity to exchange knowledge with fellow attendees was equally enriching, and I am grateful for the valuable insights gained during the conference.

My heartfelt thanks go to the Tokyo Medical and Dental University (TMDU) for their generous support of my conference participation fee through the WISE Scholarship grant. My sincere gratitude goes to Professors Manabu Kanazawa and Shunsuke Minakuchi, as well as my dedicated colleagues in the Department of Gerodontology and Oral Rehabilitation, for their invaluable guidance and unwavering support, which have been pivotal to my achievements. I also want to thank my family and my supportive partner, Nanthiphorn Po-ngam, whose unwavering encouragement has been indispensable on this journey.

Lastly, I'd like to convey my gratitude to the JADR for allowing me to share this remarkable and unforgettable experience in their newsletter. It's a privilege to document and reflect on this pivotal moment in my career.

3. IADR Bogota に参加して

木内 桜

(東北大学学際科学フロンティア研究所・
歯学研究科国際歯科保健学分野)

2023年6月21日から24日までコロンビアのボゴタで開催されたIADRに参加しましたので、自身が専門とする疫学や公衆衛生分野に関する発表内容や感想を中心に報告します。

ボゴタまでは、日本の羽田空港から北米のダラス空港を経由し、乗り継ぎも含め約30時間かかりました。現地到着後、IADR本開催前日に行われたEpi forumに参加しました。コロンビア国立大学のGuarnizo-Herreño先生がKey Noteスピーカ



ーとして登壇され、「口腔の格差指標の測定の有用性と限界」について発表されました。近年は改善しつつあるものの、長く政情不安が続いた歴史から、国内における口腔も含めた健康格差は大きい現状があるようです。若手研究者からは、フッ化物バーニッシュの Cost utility analysis など様々な発表があり、今後の歯科分野における医療経済研究の重要性を再認識しました。

IADRの本開催で印象的な内容として、WHOによるGlobal Strategy on Oral Healthに関する基調講演と、Impact of Oral health care intervention on social inequalities in oral healthという口腔の健康格差に関するセッションが挙げられます。前者では、2030年までにUniversal Health Coverageを達成するために必要な目標について説明があり、WHOの強いリーダーシップが望まれていると感じました。後者では、砂糖などのCommercial Determinants of Healthに関する対策やSimulation研究の重要性、口腔の健康格差自体の測定に留まらず、今後は介入研究の実施が必要であることなどが強調されていました。

私は3日目のOral and General Healthというセッションにおいて、"Effect of tooth loss on cognitive function among older adults in Singapore"というタイトルで博士課程の間にシンガポールで行った共同研究の成果を発表しました。発表に際し、現地でお世話になった教授夫妻も顔を見せてくださり、コロナ禍による渡航制限が緩和され、自由に国際学会に参加できるようになったありがたみを実感しました。一方で、初めての現地参加という慣れない環境からか英語での質疑応答に窮する場面があるなど、一部課題は残ったものの、無事発表を終えることができました。各セッションの質疑応答では、私以外の発表も含め、自己回答の歯の本数や咀嚼能力に関する妥当性に関し積極的な議論が交わされ、臨床側の視点と疫学側の視点の認識の違いを改めて実感しました。

今回のIADRは、日本のほぼ裏側での開催となったため、

日本を含むアジア圏からの参加者が少なく、北南米からの参加者が多かったように感じました。今回の IADR への参加を通じて、自分が研究を行う疫学・公衆衛生分野において、どういった研究が必要とされているのか方向性を見直すきっかけになりました。横のつながりという観点でも、自分が所属する BEHSR などのネットワーキングのセッションなどを通じ、海外の研究者の先生方とコミュニケーションをとることができ、今後の研究へのモチベーション向上にもつながりました。最後になりますが、IADR への参加に際してお世話になった共同研究者の先生方、所属研究室の国際歯科保健学分野の先生方に心よりお礼申し上げます。

4. New Orleans での再会を願って・・・

北川 晴朗

(大阪大学大学院歯学研究科歯科生体材料学講座)

2023 年 6 月 21 日から 24 日の 4 日間に亘り、Colombia の首都 Bogotá で開催された 2023 IADR/LAR General Session & Exhibition に参加しました。標高 2,640 m に位置する Bogotá は、赤道近くであるにもかかわらず最高気温 18° C 程度で、梅雨真っ只中の大阪から出発した私にとっては避暑地に行くような過ごしやすい気候でした。

さまざまなフィールドの研究者が集う IADR は、現在どの分野の研究が盛んに行われているかを Session や Presentation の数から肌で感じられる学会ですが、オンラインではなく対面での開催となった本会では、久しぶりにその感覚を実感することができました。本会では、44 のシンポジウムのうち、私が所属する Dental Materials Group から「The suitability of testing of bioactive materials: *in vitro*, *ex vivo*, *in vivo*」と「Do we have suitable materials to restore carious teeth prepared by MID?」という 2 つのシンポジウムが企画されました。Pulp Biology & Regeneration Research Group や Cariology Research Group との共同によるこれら 2 つのシンポジウムはいずれも、Bioactive Materials の開発や評価に関する発表により構成され、多数の参加者による熱い討論により大盛況となっていました。本会では、全ての一般演題が Interactive Talk Session による口頭発表 (1,037 演題) のみで構成されており、沢山の参加者が集うポスター会場の賑わいを感じられなかったのは少し残念でしたが、希望しても口頭発表として選出されないことが多い IADR において、発表者全員に口頭発表の機会が与えられたのは良かったように思います。

来年 3 月、米国 New Orleans で開催される 2024 IADR/AADOCR/CADR General Session & Exhibition では、私が所属する講座を主宰する今里 聡教授が IADR の President に就任される予定です。IADR は、海外の研究者だけではなく、国内のさまざまな分野の研究者と交流できる貴重な機会だと思って

います。ジャズの発祥地である New Orleans は、アメリカの中でも料理が美味しいことで有名で、「グルメと音楽を楽しめる」のが魅力のようです。コロナ渦により IADR 会員を一旦休会されている方も、これを機に再入会されて、New Orleans で沢山の日本人会員にお会いできるのを楽しみにしております。

5. 第 101 回 IADR 総会・学術大会に参加して

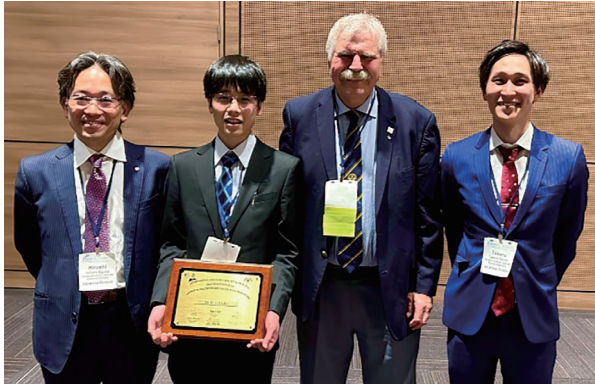
近藤 威

(東北大学大学院歯学研究科 分子・再生歯科補綴学分野)

2023 年 6 月 21 日から 24 日にかけて、コロンビアのボゴタにて第 101 回 IADR 総会・学術大会が開催されました。IADR の対面開催は、2019 年 6 月のカナダ・バンクーバーでの第 97 回学術大会以来、実に 4 年ぶりとなりました。私は Prosthodontics group で口頭発表を行った当分野大学院生、大竹航季 君の指導教員として IADR に参加しました。

6 月のボゴタの気温は日本とそれほど変わらず、むしろ湿気が少なく過ごしやすい気候でした。薬物や銃といったマイナスなイメージとは裏腹に、高台から見える旧市街の街並みは美しく、物価が安くて食事も美味しかったため、とても良い印象を受けました。学会会場である Agora Bogota Convention Center は、ガラス張りの近代的な建物で、中は吹き抜けになっており非常に開放的な雰囲気でした。南米コロンビアという場所のためか、参加人数はコロナ前と比べて大幅に少なかったですが、久々の対面開催ということもあり、各会場では活発な議論が行われていました。

私は自身の研究グループの発表の他に、Prosthodontics や Stem Cell Biology, Biomaterial に関する発表を主に聴講しました。Prosthodontics では、3D プリンターを用いた補綴装置や高齢者における口腔機能と QOL の相関について研究した発表が多く見られました。Stem Cell Biology においては、歯髄幹細胞を用いた免疫制御や 3D 培養システムによる歯や歯周組織再生に関する研究、Biomaterial では、生体活性材料に関する研究発表が目立ちました。当分野の大竹先生は Prosthodontics group の Arthur R. Frechette Award Competition の Finalist として、亜鉛イオンおよびフッ化物イオンをリリースする新規生体活性ガラスの骨補填材への応用に関する研究発表を行いました。



Arthur R. Frechette Award 授賞式にて
左より、江草宏先生、大竹航季先生 (Finalist)、Stephen F. Rosenstiel
先生 (Frechette Award Chair)、近藤威 (筆者)

6月23日の夜には、Japan Nightが開催され、総勢250名以上の参加者が集まりました。国内外の先生方がお互いの近況報告や名刺交換を行い、これまでの数年間を振り返っていました。多くの方が口をそろえて言っていたことが、対面開催の良さでした。コロナが始まって以来、オンラインでの学会開催が主流となり、現地に行かなくても多くの情報を得られるというメリットもありましたが、会議が終わると同時に画面が切れ、人とのつながりを淡白に感じることもありました。今回、久々の対面開催となったIADRに参加し、直接顔を合わせて雑談し、国内外の多くの研究者と研究に関する些細なことまで情報交換できたことはとても有意義に感じました。食事やバスの移動中に行われる会話を通じて、世界中の研究者とのつながりを深めることは、オンラインでは得られない魅力です。

帰国時には飛行機が飛ばないトラブルがありました。JADR前会長の中村誠司先生、JADR元会長の高橋信博先生、JADR会計理事の江草宏先生らとともに帰りのチケットを取り直し、Houston経由で二日間行動をともにして帰国しました。これは私にとって忘れられない良い思い出です。普段は話すこともできない先生方の貴重な話をたくさん聞いたことは、私の歯科医師人生において大きな財産となりました。

最後になりましたが、今回、研究発表の機会を与えて下さり、ご指導を賜りました東北大学の江草宏教授およびご協力いただきました先生方には心から感謝しております。また、これからもJADRおよびIADRが益々発展していくことを切に願っております。

6. 第101回IADR Bogotá大会に参加して

藤田 崇史
(明海大学歯学部機能保存回復学講座
クラウンブリッジ補綴学分野)

2023年6月21日から24日にかけて、コロンビア共和国の

ボゴタにて開催されました、第101回IADR Bogotá大会に参加しましたのでご報告させていただきます。約4年ぶりの対面式の開催となったIADRですが、コロナ禍も明け、世界中の研究者が一堂に会し、会場は熱気と笑顔に溢れていたように感じました。南米の赤道直下にあるコロンビアですが、首都のボゴタは標高が高いところにあるということで、1年間を通して最低気温が10℃前後、最高気温は20℃前後という日本より過ごしやすい気候でありました。日中は日差しが強くても湿度がなく、カラッとしていて、半袖のYシャツで快適に過ごせました。一方で夜はやや肌寒い気温になりますが、上に長袖を1枚羽織るだけで十分といった感じで、日本の梅雨、初夏よりもかなり過ごしやすいという印象をもちました。

学会会場であるアゴラボゴタコンベンションセンターは、エルドラド国際空港からタクシーでおよそ30分ほどの場所にあり、会場周囲には大きなホテルやイベントホールなど商業施設が多数見受けられました。

学会では様々なグループのセッションを聴講し、様々な分野における大変興味深い内容の発表を聴くことができました。その中で、ニューロサイエンスグループのセッションを聴講した日の夜、同グループの懇親会にも参加させていただきました。様々な国の研究者の方々と直接英語で会話をして交流を深められたことは、Web開催の学会では経験することのできない、貴重なものでした。

翌日は、バイオフィードバックセラピーのシンポジウムを聴講しました。日本からは、明海大学歯学部クラウンブリッジ補綴学分野の藤澤政紀教授と日本大学松戸歯学部クラウンブリッジ補綴学講座の飯田崇准教授がシンポジストとしてご講演されました。これまでの先生方の、長きに渡る研究の成果を海外の研究者たちと供覧、共有し、質疑応答の時間ではとても盛んなディスカッションが行われ、大変盛り上がったシンポジウムとなりました。

その日の夜は、Hilton Bogotá CorferiasにてGC主催のジャパンナイトが行われました。約270人が参加したとのことで、日本人よりも外国の方の参加がかなり多く、会場内はかなりの賑わいを見せておりました。会場内ではラーメンや寿司などの日本料理が振る舞われ、日本文化を通じてたくさんの国際交流を行うことができたのではないのでしょうか。

私は「Effect of Abutment Type on the Color of the Anterior Composite Crowns」という演題にてInteractive Talkセッションで発表させていただきました。外国の方の前で英語で口演を行うのは初めての経験でしたので、今までにないほどに緊張しました。口演後の外国の先生からの英語での質問に対し、すぐに的確な英語、内容で答えることができませんでしたが、それらも含めて自分自身を大きく成長させる貴重な経験になりました。

今回私にとって、初のIADR参加でありましたが、今回の異国の地における学会参加で得た知識、経験を糧にして、今後の研究をより良いものにして行きたいと思っております。

Ⅲ. IADR hatton Award 本選を終えて

1. Report of Hatton Award final competition 2023

Teerachate Nantakeeratipat
(大阪大学大学院歯学研究科口腔分子免疫制御学講座
口腔治療学教室)

It is my great honor to be one of the candidates of JADR for the 2023 IADR Hatton Award competition. After the COVID-19 pandemic, the 2023 IADR was a 100% in-person meeting again. Therefore, it was an exciting journey to Colombia, a possibly once-in-a-lifetime experience.

This competition was one of my dreams. I always tried my best from the domestic selection until the final round in Bogota. This year's competition format included a closed-door 10-minute oral presentation and a 5-minute Q&A, with four PowerPoint slides. It was challenging to wrap up the contents and interestingly present them. After the first-round presentation, some competitors and I presented again in the second round for the final decision. Although I could not be the two recipients of the senior basic research award, it was an invaluable experience to get comments, compliments, suggestions, and questions from international researchers. I will use them to improve my skills in the future.

In addition to the competition, the research presentations were all interactive talk format. All presenters had the opportunity to present their works in more lively ways with their presentation slides. This format also increased audiences in the presentation rooms.

Finally, I would like to thank JADR for this great opportunity and to express my heartfelt gratitude to Professor Shinya Murakami, Assistant Professor Chiharu Fujihara, and the members of the Department of Periodontology and Regenerative Dentistry, Osaka University Graduate School of Dentistry for their invaluable advice and their great support throughout the way to the competition.

2. Hatton Award 2023 本選出場を終えて

木部 琴乃
(九州大学大学院歯学研究院口腔顎顔面病態学講座顎顔面腫瘍制御学分野)

この度、2022年6月コロンビアのボゴタで開催された101st General Session & Exhibition of the IADR での2023 Hatton Award competition にてJADRからの最終候補者として発表させていただきましたので、ここにご報告させていただきます。歯科界世界最大級の国際学会であるIADRで発表する機会をいただき、国内選考会からお世話になりましたJADR前会長の中村誠司先生や現会長の森山啓司先生をはじめ、関係の諸先生方に厚く御礼申し上げます。

Hatton Award competition および General Session にて演題「The pathogenic mechanism of sialadenitis via Toll like receptor 7」の発表をさせていただきました。近年、難病指定されたシェーグレン症候群や本邦から提唱された疾患概念であるIgG4関連疾患(IgG4-RD)などの慢性炎症性唾液腺疾患により歯科を受診する患者は増加傾向にあります。両病態の中心は獲得免疫であるとされてきましたが、最近では自然免疫の関与が示唆されており、我々はIgG4-RDにおけるToll様受容体7(TLR7)との関連を報告してきました。TLR7は、ヌクレオシドを認識して活性化するため、その活性化機序として、リソソーム内のヌクレオシドを細胞質に排出しTLR7応答を抑制するヌクレオシドトランスポーターのSLC29A3に着目し、SLC29A3欠損マウスを樹立しました。TLR7の恒常的な活性化を認めるSLC29A3欠損マウスが唾液腺炎を自然発症するか検証し、慢性炎症性唾液腺炎の発症機序とTLR7の関連について明らかにすることを目的に研究を進めました。その結果、SLC29A3欠損マウスにて唾液腺炎が自然発症し、かつその病態の中心にTLR7発現マクロファージが存在していることが明らかになりました。

昨年11月に行われた2023 IADR Hatton Awardの国内選考会で代表に選出いただいてから、スライドや原稿、質問対応など幾度となく見直し、先生方にご指導いただきながら準備を重ねました。開催地が南米のコロンビアであるということから、単身での渡航・滞在に対する不安を感じておりましたが、中村誠司先生ご夫妻、大阪大学の今里聡先生はじめ深夜便で到着する予定だったので現地でのタクシー手配など手厚いサポートをいただき、大変感謝しております。ホテルの手配や最終的に夫を同伴しての参加を許可してくださいましたIADR学会関係者の皆様にも厚く御礼申し上げます。コロナ禍ということもあり、国外での国際学会の参加は今回が初めての経験で、発表はもちろんですが、発表以外の渡航・滞在に関する対応も貴重な経験となりました。発表が近づくにつれ、緊張が止まりませんでしたでしたが、無事発表を終えることができました。Hatton Awardでは残念ながら入賞まで手が届きません

したが、General Sessionでは3月で九州大学大学院歯学研究院顎顔面病態学講座口腔顎顔面腫瘍制御学分野教授をご退官された中村誠司先生と奥様、夫に発表を聞いてもらうことができ、この経験は何物にも代えがたい貴重で大切な経験となりました。この経験を今後の人生に活かせるように精進していきたいと思っています。

最後になりましたが、本研究の遂行にあたり、ご指導を賜りました九州大学大学院歯学研究院口腔顎顔面病態学講座顎顔面腫瘍制御学分野 中村誠司前教授、東京大学医科学研究所感染遺伝学分野 三宅健介教授をはじめ、すべての先生方にこの場をお借りして心より感謝申し上げます。

3. Hatton Award 最終選考を終えて

柳田 陵介

(東京医科歯科大学 大学院歯学総合研究科摂食嚥下リハビリテーション学分野)

6月にコロンビアのボゴタで開催されたIADRのGeneral Sessionにて、Hatton Award Competitionの最終候補者として発表する機会をいただきました。まずは今回お世話になりましたJADRの先生方、また事務局の皆様には厚く御礼申し上げます。私が学生の頃、普段お世話になっている大学院生や教職員の先生方がIADRで発表する姿を見て、研究をするならいつかIADRで発表してみたいと思っておりましたので、今回その目標が実現できて大変光栄に存じます。

今回私が発表した演題は「Sleep-disordered breathing is a complication in post-stroke patients with dysphagia.」で、回復期病院における脳卒中後の嚥下障害患者を対象に、睡眠障害を調査したものになります。日本では歯科臨床において摂食嚥下リハビリテーションが広まっているほか、回復期病院においても歯科は口腔ケアに加えて嚥下機能への介入も行われております。一方で日本以外の国においては歯科がここまで嚥

下に介入する例はなく、発表を通じて歯科における摂食嚥下リハビリテーションの存在をアピールできたと思います。

今回のHatton Award Competitionで受賞は叶わなかったものの、応募を機に発表に向けて研究を進めることができ、またパンデミックで中断していた対面での開催も再開して無事に発表でき、大変貴重な機会を得ることができました。そして会期中に行われたレセプションパーティーでは多くの先生方と意見交換することができ、とある国の先生からは現地で摂食嚥下リハビリテーションの講演に呼んでもらう約束をいただけたという成果も得られました。

また応募の準備をしていた昨年は私がタイのNaresuan大学に留学しており、11月には国内の二次審査を受けるために1日だけ日本に帰国したのですが、無事に予選を通過してコンペティションに出場することができ、努力が実ったと感じた次第です。

最後になりましたが、今回の大会での発表に当たり研究のご指導をいただきました東京医科歯科大学摂食嚥下リハビリテーション学分野の戸原 玄教授をはじめ、共同研究者の先生方にこの場をお借りして心より御礼申し上げます。



IV. IADR Council Meeting 報告

JADR 会長 森山 啓司
(東京医科歯科大学 大学院歯学総合研究科
顎顔面矯正学分野)

IADR Council Meeting が、2023 年 6 月 20 日にコロンビアの首都ボゴタの Agora Convention Center にて開催されました。今回 IADR 副会長として今里 聡 先生 (大阪大学) が執行部側で出席され、JADR からは会計担当理事の 江草宏先生 (東北大学) と私が参加させていただきました。

新型コロナウイルス感染症の世界的流行後としては初となる対面形式での Council Meeting でしたが、当初予定されていたオンライン開催から現地開催へと変更されたことも影響して、参加者はいつもより少ない印象を受けました。会場では IADR 執行部のメンバーが前方の雑壇に着座し、各 Council Member はあらかじめ指定されたフロアの円卓に着くという従来の形式となっていました。今回の会議資料は約 600 ページ近くにも及ぶ膨大なものでしたので、ここでは関連の深い議事のみ選択し、その概略をご報告させていただきます。

【審議事項】

1. IADR Vice-President (2024-2025) 候補者として、以下の 3 名が承認された。
 - Jennifer Gallagher (PER), British Division, Global Oral Health Inequalities Research Network
 - Mark Herzberg (NAR), AADOCR, Microbiology/Immunology Group
 - Marco Peres (APR), Southeast Asian Division, Behavioral Epidemiologic and Health Services Research Group
2. 2023-2024 IADR committees の委員が承認された。
3. "IADR Scientific Group/Network Governance Handbook" が承認された。
4. "IADR Palestinian Section" の設置が承認された。
5. IADR 定款における" 会員資格の猶予期間" に関する規定の改訂が承認された。
6. 2021 年度の独立監査人による監査報告が承認された。
7. 2023 IADR Budgets が承認された。
8. 2026 IADR General Session の開催地はオーストラリアのメルボルン、会期は 2027 年 6 月 23 日-26 日とすることが承認された。
9. "Oral Diseases as Noncommunicable Diseases (NCDs) and within the Global NCDs Agenda White Paper" が承認された。

【報告事項】

1. IADR の正式名称が" International Association for Dental, Oral and Craniofacial Research" へと変更されたことが報告され、新しいロゴのお披露目があった。なお、略称は従来通り" IADR" が用いられることが報告された。
2. 各 Division-Section の会員数が報告された。

【自由討論】

1. コロナ禍によって落ち込んだ IADR の財政状況を健全化し、機能をさらに充実していくため、年会費や大会参加登録費をカテゴリーごとに比率を定めて改訂することを検討中であることが報告され、地域性の観点や学生会員をより多くリクルートする観点から、さまざまな意見が出された。
2. IADR General Session の発表形式について、IADR の科学的水準をさらに向上させる観点から、発表形式のあり方を見直すべきかどうかについて意見交換がなされた。

今回の Council Meeting を通して強く印象に残ったのは、IADR が世界の歯学研究の裾野を広げながら、同時に最先端の科学研究を推進するという二つのミッションをいかに両立させるか、また、コロナ禍で落ち込んだ IADR の会員数をどのように回復させるか、といった課題に真摯に向き合い、解決に向けて皆で協力しながら取り組んでいる姿でした。一方、配布された資料の中では、Japanese Division の会員数の推移として、2013 年は 1,517 名、コロナ前の 2018 年は 1,234 名、2023 年 (YTD) は 604 名、と過去 10 年間で半数以下に減少していることが示され、このままでは日本の歯学研究の国際的プレゼンスが大きく低下しかねない状況にあることが改めて痛感いたしました。世界は今、新型コロナウイルスの感染拡大を終えて、研究活動を回復させようとしてきております。IADR 会員資格への入口ともなる JADR にますます多くの方にご入会いただき、世界の歯学研究を大いに牽引していただくことを期待しております。

皆様のご協力を何卒よろしくお願い申し上げます。

V. 第 71 回国際歯科研究学会日本部会 (JADR) 総会・学術大会開催のご案内

大会長 山田 聡
(東北大学大学院歯学研究科歯内歯周治療学分野)

会 期: 2023 年 11 月 25 日 (土曜)・26 日 (日)
会 場: 東北大学医学部開設百周年記念ホール (星陵オーデトリウム)
宮城県仙台市青葉区星陵町 2-1

大会テーマ: Explore the Radiant Future of Dental Research

大会長：山田 聡
 (東北大学大学院歯学研究科歯内歯周治療学分野)
 内容：特別講演，シンポジウム，ランチョンシンポジウム，ポスターセッション，展示，その他

プログラム：

大会1日目：11月25日(土曜)

- ・特別講演 I (IADR 会長講演)
 座長：森山啓司先生(東京医科歯科大学大学院歯学総合研究科)
 講演者：Ophir Klein 先生(カリフォルニア大学サンフランシスコ校)
 「Developmental cues as a foundation for therapies」
- ・特別講演 II
 座長：高橋信博先生(東北大学大学院歯学研究科)
 講演者：阿部高明先生(東北大学大学院医学系研究科)
- ・ランチョンセミナー I (予定)
- ・JADR/KADR 合同シンポジウム
 オークナイザー：江草 宏先生(東北大学大学院歯学研究科)
 講演者：塚崎雅之先生(東京大学大学院医学系研究科)
 松本卓也先生(岡山大学歯薬学総合研究科)
 Chan Ho Park 先生(慶北大学)
 Sang-woo Lee 先生(ソウル大学)
- ・Hatton Award 日本代表者発表講演
 座長：野村武史先生(東京歯科大学)
 講演者：Hatton Award (ニューオリンズ大会) 日本代表者3名
- ・ポスター発表 I (JADR/GC 学術奨励賞・Joseph Lister Award 含む)
- ・会員懇親会(星陵オーデトリウム)

大会2日目：11月26日(日曜)

- ・シンポジウム I : New insights in Biology of oral diseases
 オークナイザー：杉浦 剛先生・山田 聡(東北大学大学院歯学研究科)
 講演者：大槻晃史先生(東北メディカル・メガバンク機構)
 杉浦 剛先生(東北大学大学院歯学研究科)
 Ariunbuyan Sukhbaatar 先生(東北大学大学院歯学研究科)
 鈴木茂樹先生(東北大学大学院歯学研究科)
- ・特別講演 III (KADR 会長講演)
 座長：森山啓司先生
 講演者：In-Sung Yeo 先生(ソウル大学)
 「Implant surface bioactivity and three interfaces to consider in tissue interaction」
- ・Rising Scientist Session : Immunity in oral diseases
 オークナイザー：山田 聡

講演者：大嶋 淳先生(大阪大学大学院歯学研究科)
 新城尊徳先生(九州大学大学院歯学研究院)
 梶川哲宏先生(東北大学大学院歯学研究科)

ランチョンセミナー II (予定)

- ・シンポジウム II : Recent advances of skeletal development, regeneration and disease
 オークナイザー：齋藤正寛先生(東北大学大学院歯学研究科)・大庭伸介(大阪大学大学院歯学研究科)
- 講演者：波多賢二先生(大阪大学大学院歯学研究科)
 北条宏徳先生(東京大学大学院医学系研究科)
 松下弘樹先生(長崎大学歯薬学総合研究科)
 鎌野優弥先生(東北大学大学院歯学研究科)
- ・ポスター発表 II

VI. 第72回国際歯科研究学会日本部会 (JADR) 総会・学術大会開催のご案内

大会長 後藤 哲哉
 (鹿児島大学大学院歯学総合研究科歯科機能形態学分野)

会 期：2024年11月16日(土)～17日(日)

会 場：かごしま県民交流センター(鹿児島市)

〒892-0816 鹿児島市山下町14-50

大会長：後藤 哲哉

(鹿児島大学大学院歯学総合研究科歯科機能形態学分野)

内 容：特別講演，シンポジウム，ランチョンシンポジウム，ポスターセッション，展示，その他

VII. 第102回 IADR 総会・学術大会のご案内(2023年度 IADR, New Orleans, LA, USA)

2024年度の IADR は、3月に New Orleans にて開催予定です。奮ってのご参加をお願いいたします。

会 期：2024年3月13日(水)～16日(日)

開 催 地：New Orleans, LA, USA

演題登録締切：2023年10月17日(火)

CONTENTS

I. 巻頭言	森山 啓司	1	I. 2023 IADR/LAR General Session & Exhibition with WCPD	
II. 第 101 回 IADR ボゴタ大会 (2023 年度)			Keiji Moriyama: JADR President	1
各受賞者報告、シンポジウム報告			II. Reports of the 101st IADR General Session in Bogotá, Colombia	
1. Award in Geriatric Oral Research			1. Award in Geriatric Oral Research	
津賀 一弘		3	Dr. Kazuhiro Tsuga : Hiroshima University	3
2. Arthur R. Frechette Award			2. Arthur R. Frechette Award	
NAMANO, Sahaprom		3	Dr. NAMANO, Sahaprom	3
3. 発表・参加レポート			3. Oral and General Health	
木内 桜		4	Dr.Sakura Kiuchi : Tohoku University	4
4. 発表・参加レポート			4. Dental Materials	
北川 晴朗		5	Dr.Haruo Kitagawa: Osaka University	5
5. 発表・参加レポート			5. Prosthodontics	
近藤 威		5	Dr. Takeru Kondo : Osaka University	5
6. 発表・参加レポート			6. Interactive Talk Session	
藤田 崇史		6	Dr. Takashi Fujita : Meikai University	6
III. IADR hatton Award 本選を終えて			III. 2023 IADR Unilever Hatton Competition & Awards	
1. Teerachate Nantakeeratipat (大阪大学)		7	1. Teerachate Nantakeeratipat : Osaka University	7
2. 木部 琴乃 (九州大学)		7	2. Kotono Kibe : Kyushu University	7
3. 柳田 陵介 (東京医科歯科大学)		8	3. Ryosuke Yanagida : Tokyo Med. And Dent. University	8
IV. IADR Council Meeting 報告			IV. Report of the IADR 2023 Council Meeting	
森山 啓司		9	Keiji Moriyama: JADR President	9
V. 第 71 回 JADR 総会・学術大会開催のご案内			V. Announcement of the 71st JADR Annual Meeting	
山田 聡		9	Dr. Satoru Yamada : Chair of the 71st JADR Annual Meeting	9
VI. 第 72 回 JADR 総会・学術大会開催のご案内			VI. Announcement of the 72nd JADR Annual Meeting	
後藤 哲哉		10	Dr.Tetsuya Goto : Chair of the 72nd JADR Annual Meeting	10
VII. 第 102 回 IADR 学術大会			VII. Announcement of the 102nd General Session of IADR in New	
(2024 年度、New Orleans, LA, USA) のご案内			Orleans, LA, USA)	10
事務局		10		

●編集後記●

今年は長く続いたコロナ禍を乗り越えて、様々な学術活動が以前の状態に本格的に戻ってきた年となりました。世界的潮流となった DX の恩恵で、距離を超えたコミュニケーションが確立され、情報発信もさらに加速していることを実感します。同時に、久しぶりの対面開催の学会に参加しますと、直接に意見交換をする熱量や新たな出会いの重要性を再確認された方々も多いと思います。

2024 年 3 月の New Orleans USA での IADR General Session & Exhibition は、大阪大学 今里 聡先生が JADR から 4 人目となる IADR President に就任される喜ばしい大会になります。そろそろ、対面での IADR が待ち遠しくなっておられることと思います。是非とも多くの皆様が、この記念すべき大会にご参加されるようお願い申し上げます。

発行：国際歯科研究学会日本部会 (JADR) <http://jadr.umin.jp>
 連絡先：
 国際歯科研究学会日本部会 (JADR)
 副会長 林 美加子 (大阪大学大学院歯学研究科歯科保存学教室)
 〒 612-8082 京都市伏見区両替町 2-348-302
 TEL : 075-468-8772 FAX : 075-468-8773 E-mail : jadr@ac-square.co.jp
 2023 年 10 月 31 日 発行